

老年期障害作業療法学

[演習] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryu-u.ac.jp 朝日まどか

【概要】

本演習はDP3に該当する。具体的には、認知症高齢者への評価計画や治療計画立案等について演習することにより、適切な計画や実施プログラム立案時のポイントを把握する。高齢者に用いられる作業療法実践法を講義・実技体験することにより、その有用性を学ぶ。これらを通して、評価実習や総合臨床実習において、該当対象者への活用や汎用イメージの定着をめざす。

【学修目標】

一般目標

認知症高齢者の評価計画や治療計画立案等について具体例を用いた演習を実施することにより、適切な計画や実施プログラム立案時のポイントがつかめられることを目標とする。また、高齢者に用いられる作業療法実践法（集団アプローチ：集団/場の活用、遊び・レクリエーション活用、グループワークトレーニング）について、基礎知識の学修や実技を体験して、その有用性を学ぶ。

行動目標

1. 認知症高齢者に対する評価や支援に必要な基礎知識を説明できる。
2. 評価計画や治療計画の立案経験を通して、症例への介入に対する的確なイメージを持つことができる。
3. 高齢者に用いられる作業療法の実践法（集団アプローチ）を適切に説明できる。
4. 実技等を通じて、実践法の有用性を体感し、説明することができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|------------------------------|---|---------------|
| 1 | オリエンテーション 認知症高齢者の評価や支援 | 対象者に関する評価や支援に必要な基本的観点について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 2 | 評価と支援方法の検討 | 身近な存在である祖父母について、作業療法の視点に基づき分析し、支援方法を検討する。 | 朝日まどか |
| 3 | 評価と支援方法の検討 | 身近な存在である祖父母について、作業療法の視点に基づき分析し、支援方法を検討する。 | 朝日まどか |
| 4 | 治療計画立案と実践 | 認知症高齢者を対象とした症例に関する治療計画立案を通して、実践方法を学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 5 | 治療計画立案と実践 | 認知症高齢者を対象とした症例に関する治療計画立案を通して、実践方法を学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 6 | 治療計画立案と実践 | 認知症高齢者を対象とした症例に関する治療計画立案を通して、実践方法を学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 7 | 老年期作業療法実践法（基礎） | 集団/場の活用について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 8 | 老年期作業療法実践法（基礎） | 集団/場の活用について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 9 | 老年期作業療法実践法（基礎） | 遊び・レクリエーションの活用について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 10 | 老年期作業療法実践法（基礎） | 遊び・レクリエーションの活用について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 11 | 老年期作業療法実践法（基礎） | 遊び・レクリエーションの活用について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 12 | 老年期作業療法実践法（応用：グループワークトレーニング） | グループワークトレーニングの紹介と体験を通して、有用性を学ぶ。 | 鎌田樹寛 朝日まどか |
| 13 | 老年期作業療法実践法（応用：グループワークトレーニング） | グループワークトレーニングの紹介と体験を通して、有用性を学ぶ。 | 鎌田樹寛 朝日まどか |
| 14 | 老年期作業療法実践法（応用：グループワークトレーニング） | グループワークトレーニングの紹介と体験を通して、有用性を学ぶ。 | 鎌田樹寛 朝日まどか |
| 15 | まとめ | 高齢者への作業療法実践に関して、学内講義・演習、討論を通して学びを深める。 | 鎌田樹寛 朝日まどか |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポート : 40%

課題プレゼンテーション : 10%

定期試験 : 50%

レポートについては、返却後必要に応じてフィード・バックを行う。

【教科書】

適宜資料を配布する。

【参考書】

平野馨 著 「対人関係の基礎知識」 日本看護協会出版 2004年

作業療法ジャーナル編集委員会 編 「レクリエーション」 三輪書店 1996年

竹内孝仁 他 訳 「痴呆性老人のユースフルアクティビティ」 三輪書店 2007年

山根寛 著 「ひとと集団・場(第2版)」 三輪書店 2007年

日本レクリエーション協会 編 「グループワーク・トレーニング」 遊戯社 2006年

山田孝 他 著 「高齢期障害領域の作業療法(第2版)」 中央法規出版 2016年

【備考】

- ・ 質疑応答、感想等のフィードバックはmanabaを活用する(鎌田)。
- ・ 講義配布資料等は、manabaにもアップする(鎌田)。

【学修の準備】

- ・ 実技を通して感じられることを重視する授業であるため、積極的に参加すること。
- ・ 求められていることを絶えず考えて、主体的に判断し、行動する姿勢を持つこと。
- ・ 遊びやレクリエーションに関するアイデアの創造に十分な時間(80分以上)を用いること。
- ・ レポートに関する準備では、十分に文献検討を行う時間を取ること(各80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

鎌田樹寛(作業療法士) 朝日まどか(作業療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験を活かし、治療的集団レクリエーションやグループダイナミクスについての知識や活用のポイントを実技を通して体験しながら、その有用性の理解を促す。実務経験を活かし、認知症の対象者への作業療法治療計画やアプローチについて、クリニカルリーズニングと国際生活機能分類を基盤概念とした具体的事例を提示し、そのことに関するレポートを作成させながら、その要点の理解を促す。